

「先端IT活用推進コンソーシアム」活動趣旨書

2010年6月14日

XMLコンソーシアム後継団体準備委員会

XMLコンソーシアムは、国内におけるXMLの普及啓発という所期の目的を達成し、2010年3月26日をもって10年に亘る活動を終了しました。本会は、その理念と活動方針を継承し、XMLコンソーシアムの発展型として活動目的や内容をリニューアルし、活動を開始いたします。

XMLあるいはXMLを実装した技術は、確実な浸透を続け、今やシステム間連携の送受信データ、コンテンツ記述にXMLを用いることは半ば常識となっています。そして、現在、クラウドやソーシャル・コミュニケーションなどが熱い関心を集め、急速に利活用が進んでいます。XMLコンソーシアムの活動でも、XMLの利活用が進む程に、他の技術的要因にも着目することが必要となり、クラウド、SNS等の先端IT分野を活動の一部として積極的に取り入れてきました。この実績とIT動向を踏まえ、先端ITの利活用推進を次の活動のターゲットと決めました。

昨今、IT(情報処理技術)はその変化が早まっただけでなく、従来の発展の方向性とは大きく変わりつつあります。クラウド、iPad/Kindle/Android/iPhone等...急拡大する新しいインフラ、そして急速に進むTwitter利活用等、これまでのハードウェアやネットワークの性能の増大による進化とは明らかに異質な進化が起きています。しかもそのスピードは早く、発展の方向も拡大し、拡散しています。個々の技術者が、個人の努力で身につけるのは容易ではありません。加えて、利益を追求する企業活動の中で、先端的な新技術を追求することは必要と認識されていても、現実には難しい局面に遭遇しています。しかし、新技術を取り入れず旧態依然のままでは将来の発展は見込めません。このような現状を打破すべく、本会では、企業の発展に寄与する技術者の自律的な活動を支援し、個々の技術者が新しい技術を身につけ、今後の企業活動に活かすための活動を計画しております。

- ・ 日頃より関心はあるが実際には学ぶ機会のない先端ITに関する情報をいち早く、そして幅広く技術者に提供し、試用してみる場を提供すること
- ・ 技術者が切磋琢磨しあって先端ITに関する情報と知見を習得し、共有する場を提供すること
- ・ 先端ITを検証し、可能性をアセスし、良いものであればその利活用を推進すること
- ・ いち早く次の先端ITを発掘し、紹介していく場を提供すること
- ・ 先端ITに関する企業間交流の場を提供すること

閉塞感に満ち、元気をなくしている日本のIT業界や産業界を元気にしたい、そんな思いを込めて、本会は、明日のビジネスと社会基盤を支える先端ITの利活用を推進する技術集団を目指します。

以上

- 添付： 1. 「先端IT活用推進コンソーシアム」の概要
2. 会員規約(案)

添付資料1:

「先端IT活用推進コンソーシアム」の概要

1. 会の名称: 「先端IT活用推進コンソーシアム」

2. 会の理念と活動方針

本会は、XMLコンソーシアムの理念、活動方針ならびに基本的な体制を継承する

- ・ 中立性
- ・ 一社ではできない活動、競合関係を越えた活動
- ・ 人的ネットワークの構築
- ・ 外部組織・団体との協業
- ・ 成果物の公開

3. 活動の目的と意義

本会は、会員に次の場を提供します。

- ・ 先端ITの知識・スキルを有する技術者育成の場
- ・ 先端ITの知識・スキル習得を目指し技術者が切磋琢磨する場
- ・ 先端ITで競争力向上を目指す企業間の交流の場
- ・ 先端ITによる新しい市場を考える場

上記の場を通して、次々に出現する先端ITをテーマに、下記の活動を行います。

- ・ 技術者がいち早く、幅広い情報・知識を入手し、
- ・ 実際に先端ITに触れ、試用評価し、知見を共有し、可能性をアセスし、
- ・ ベストプラクティスの作成やノウハウの蓄積、共有を行い、
- ・ これを報告書として公開する

上記の活動をもって、会員企業における先端ITの利活用を推進するとともに、先端ITの技術集団として社会の発展に貢献することを目指します。

4. 活動対象候補

先端IT分野では、次から次へと目まぐるしく新しい技術が生まれ、そのいくつかは瞬く間に注目を集め、急速に利活用が進み、凄いスピードで進化を遂げていきます。従って、活動開始時点での活動対象候補を暫定的に選定することとし、以後は、先端ITの動向や会員のご要望を反映させる形で、スピーディーに、タイムリーに活動対象の更新を行う計画です。

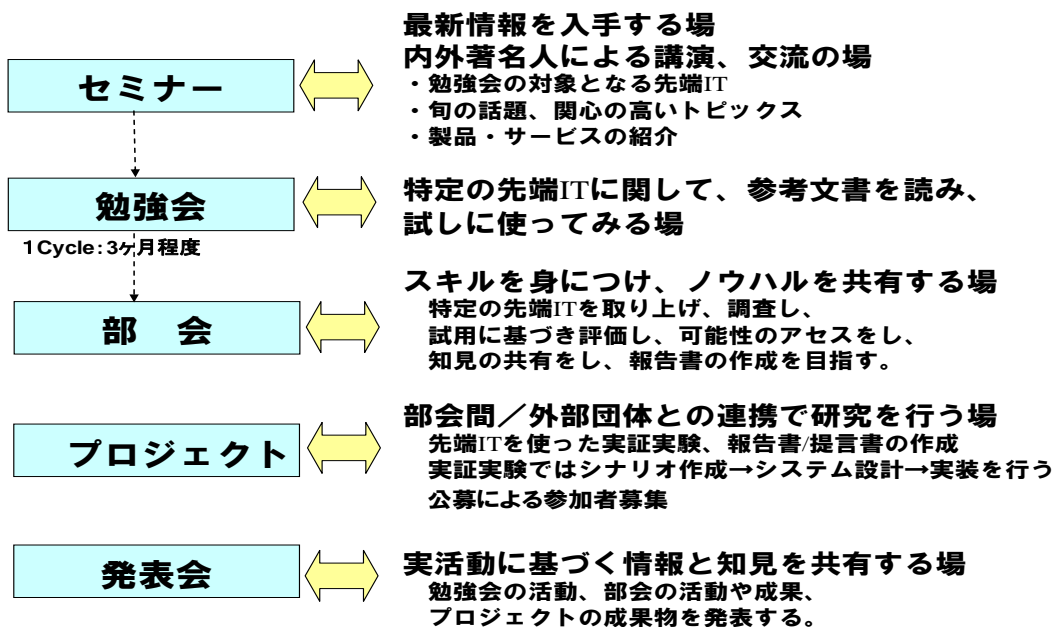
現在、我々は次の先端ITに注目しており、当初の活動は下記を対象に行う予定です。

- ・ クラウド分野で次々に出現する新技術 (Hadoop/NoSQL/memcached/CUDA)
- ・ ソーシャル・コミュニケーションとアプリケーション (facebook/Twitter/Open Social)
- ・ モバイルOSやアプリケーション開発環境 (iPhone/Android)
- ・ 電子書籍 (ePub/iPad/Kindle)
- ・ Rich Internet Application (HTML5)
- ・ 実世界と情報世界の重ね合わせ (拡張現実(AR))
- ・ 利用コンテキストの活用、情報コンシェルジュ (マッシュアップ/セマンティック/サービス・エンジニアリング)
- ・ グリーンIT (リアルタイムWeb)

等

5. 活動の種類

本会活動の目的を実現すべく、下記のような活動を計画しています。



上記の通り、会員の自主的な活動の場として、勉強会、部会、プロジェクトを計画しています。前述の注釈に加え、それぞれの活動特質を追記いたします。

- ① 勉強会では、早いスピードで次から次へと新技術が誕生する分野であることを意識し、特定の先端ITを短期集中(3ヶ月程度)で学習します。先端ITの動向を見ながら、そして会員の希望に副わせながら、次々と旬のテーマを取り上げていく予定です。また、人気の高い先端ITに関しては、適宜、勉強会を繰り返す予定です。会員は希望する勉強会に何度でも参加することができます。
- ② 部会では、特定の先端ITを対象に、参加メンバーが活動期間と目標、そして具体的な活動内容や方法を定めます。定期的な活動を通して、また、すでに知見を有するメンバーとの交流を通して、参加者は特定の先端ITに関し知識とスキルを深め、ノウハウを共有することが可能になります。加えて、人的ネットワークを培うことができます。会員は希望する部会に、いつでも、いくつでも、参加することができます。
- ③ プロジェクトは、特定の目標(特定テーマによる実証実験、報告書/提言書等の作成)のために、一定期間、複数部会が合同で、あるいは、外部組織・団体と連携し活動します。実証実験の目的は、部会活動で得た仮説を検証することであり、外部との連携により、ユーザー視点での取り組み、データの提供、現場の助言等を受けられる利点があります。会員は公募に応募し、プロジェクトに参加することができます。

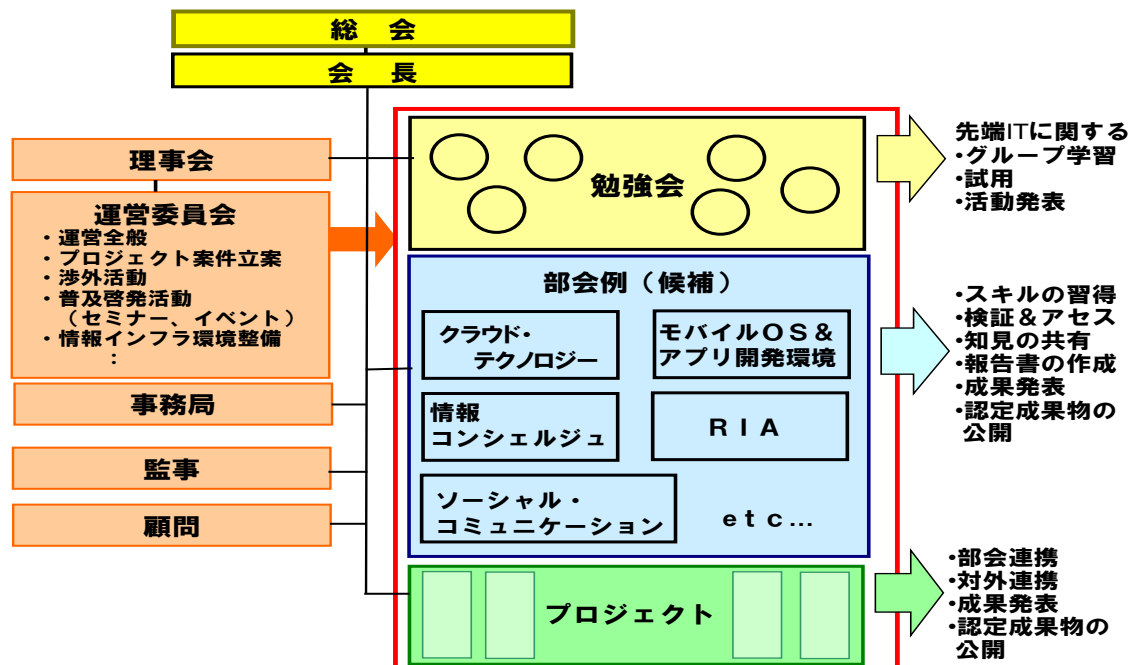
注：本会は、XMLコンソーシアムで培った外部組織・団体(他業界・ユーザー団体、官公庁等)との協力関係を継承する予定です。

6. 会員： 法人企業、個人事業主、学生

7. 会費： 10万円 (学生会員は5千円)

8. 会期： 3年間（2010年9月～2013年8月末）

9. 組織案：



10. 入会のメリット

■団体活動の意義

- ・ 企業の枠を超え、あるいは競合関係を超えて、全体を見渡せる視点を持ち、業界団体的な立場で行動できる。
- ・ 団体活動を通して新しい人脈が形成でき、また新しいビジネスへ展開するチャンスを持てる。

■会員企業にとってのメリット

- ・ 先端 IT に明るい技術者を先行して育成できる。
 - * 他企業の技術者との交流を介してスピーディーな情報入手や効果的な技術向上が見込める。
 - * 他者の前で発表することにより、プレゼンテーション能力の向上が見込める。
- ・ 技術者との交流により、先端 IT の利活用や市場開拓に向けた基礎的な情報の入手が見込める。
- ・ 部会や勉強会を立ち上げ、先端 IT に関連する自社戦略や製品の普及マーケティングの場、普及啓発の場として利用することができる。
- ・ 業界別ユーザー団体等と連携でき、新しい人脈を形成できる。
- ・ 本会が主催するセミナー、勉強会、部会、発表会に、人数の制限なく無料で参加できる。
- ・ 会員限定の成果物や発表資料を利活用できる。
- ・ 成果を公開することで、社会貢献ができる。

■活動に参加する個人にとってのメリット

- ・ 先端 IT に関し、知識、技術、経験を有する技術者と交流でき、自己の能力を向上できる。
- ・ 業種や企業の枠を超えた人的ネットワークを構築できる。
- ・ 内外著名人の講演を聞き、交流を持てる。